

CREATE LASTING IMPACT

持続可能なインパクトを生み出そう

2026～2027年度RI会長メッセージ

WEEKLY REPORT

JULY.15.2026 第2192回

UEDA EAST 上田東ロータリークラブ

第2600地区 東信第2グループ 創立1978.6.14

会長／田守正彦 幹事／水出博史 会報委員長／柳澤 誠

例会：毎週水曜日 午後12:30～1:30

会場：上田東急REIホテル

事務局：上田市天神4-24-1 上田東急REIホテル 3F

TEL 0268-21-3500 FAX 0268-21-3501

URL: <http://www6.ueda.ne.jp/~uedaeast-rc/>

E-mail: uedaeast-rc@po6.ueda.ne.jp

上田商工会議所青年部の活動について



上田商工会議所 青年部 会長
青木 義典様

本日はお招きいただき、誠にありがとうございます。上田商工会議所青年部会長の青木義典と申します。

上田商工会議所青年部は、上田地域で活動する45歳以下の若手経営者や後継者、企業を代表する社員などで構成され、45歳をもって卒業となる組織です。現在は68名が所属しており、ちょうど昨日、新たに2名の仲間が加わりました。

主な活動は、仲間づくり、自己研鑽、地域貢献です。先ほど「組織は楽しくなければ育たない」というお話がありましたが、上田商工会議所青年部も諸先輩方のおかげで、とても仲が良く、楽しく活動できる組織になっています。私自身も入会を通じて、多くの友人や仲間恵まれました。また、卒業後も青年部で築いたつながりを大切に、生涯の仲間として交流を続けている先輩方を多く拝見しています。

ここからは、昨年度に行った主な活動をご紹介します。

年度初めの4月には総会を開催し、新年度の役員を選出するとともに、45歳を迎えた先輩方の卒業をお祝いします。また、佐久・小諸の青年部との合同スポーツレクリエーションも行っています。競技はかなり本格的で、時にはけが人が出るほど熱量の高いイベントですが、青春時代を思い出すような雰囲気の中で、地域を越えた交流を深めています。企画・運営は、佐久、小諸、上田の青年部が持ち回りで担当しています。

夏には上田わっしょいへ踊り手として参加するとともに、警備の仕事も担っています。花火大会でも警備に携わっており、本年度は栈敷席のお客様を対象とした飲食物の販売も実施する予定です。栈敷席から屋台まで移動することが難しい方のお役に立てるよう、青年部として取り組んでまいります。このほか、会員とその家族を対

象にした親睦バーベキューなども開催しています。

青年部を代表する事業の一つが、上田真田まつりの「決戦劇」です。これは100人規模の一般参加者によってつくり上げる本格的な市民劇であり、私たち青年部が企画・運営を担当しています。毎年、主人公となる真田幸村役をオーディションで選出しており、今年も7月4日に、第15代となる幸村役が決定しました。

9月から約2か月間の稽古を重ね、本年度は11月1日に本番を迎えます。毎年脚本を書き下ろし、近年では青年部内で脚本、演出、殺陣の指導まで行うようになりました。青年部会員が真田十勇士を演じる伝統もあり、一般参加の皆様と一緒に、本気で舞台をつくり上げています。この事業をきっかけに上田へ移住された方もいるほど、人を夢中にさせる魅力と、非常に大きなやりがいのあるイベントです。現在も参加者を募集しておりますので、ぜひ皆様にもご注目いただければと思います。

また、昨年度から婚活パーティーを復活させ、多数のカップルが成立しました。本年度も開催を予定しています。そのほか、ボウリングなどの親睦事業や、事業者としてのスキルアップ、考え方の見直しにつながる各種研修会も実施しています。

組織運営では、毎月の役員会、定例会、合同委員会を通じて顔を合わせる機会を増やし、親睦と連携を深めています。本年度からは、新入会員が加わった月の定例会後に歓迎会を開く方式としました。コロナ禍で減少していた飲食を伴う交流も徐々に増え、改めて「飲みニケーション」の力も大切にしています。

45歳以下の経営者、後継者、または企業を代表する社員であれば、どなたでも入会できます。皆様のお近くに、地域とのつながりを広げたい方、仲間と楽しみながら自分を高めたい方がいらっしゃいましたら、ぜひ上田商工会議所青年部をご紹介ください。

本日はご清聴いただき誠にありがとうございました。

- 司 会 春原友紀君
- 斉 唱 「それでこそロータリー」
- ゲ ス ト 青木義典様(上田商工会議所 青年部 会長)
- ラッキー賞 蓑輪佳明君(季節のアレンジ花)
- 友 愛 賞 竹内 強君(蓑輪君より富山のお土産白エビのおせんべ)
蓑輪「お寿司屋さんで白エビどんぶりをいただきました」
渡辺敏成君(飯島洋一君より丸山珈琲の詰め合わせ)



■会長挨拶

田守 正彦 会長



日本のお掃除の歴史と奉仕の心

皆さん、こんにちは。皆さんは、サッカーのワールドカップや国際大会で、日本のサポーターが試合終了後にスタンドのごみを拾い、きれいに掃除をして帰る姿をご覧になったことがあるでしょうか。

試合に勝った時だけではなく、負けた時にも、誰かに頼まれたわけでもなく、ごみ袋を手にして、自分達が使った観客席をきれいにして帰る。その姿は海外でも大きく報道され、「なぜ日本人は試合の後に掃除をするのか」と話題になりました。

しかし、日本人にとっては、それほど特別な行動ではないのかもしれませんが。私たちは子どもの頃から、学校の教室や廊下を自分たちで掃除してきました。「自分たちが使った場所は、自分たちできれいにする」という考えが、自然に身についているからです。

では、こうした日本の掃除文化は、どこから始まったのでしょうか。日本では古くから、神道において「清める」ということが大切にされてきました。神社では、祭りや神事を行う前に、境内を掃き清めます。また、参拝する前には、手水で手や口を清めます。これは、単に汚れを落とすだけではなく、場所を整えることによって、自分自身の心も整え、清らかな気持ちで神様をお迎えするという考えです。

仏教、特に禅の世界でも、掃除は大切な修行とされています。禅寺では、僧侶が朝早くから庭や廊下を掃きます。掃除は誰かが嫌がる雑用ではなく、自分の心を見つめるための修行です。落ち葉を一枚一枚掃くように、心の中にある迷いや驕り、執着を少しずつ取り除いていく。掃除を通して、場所だけでなく、自分の心を磨くのです。

江戸時代になると、この掃除の文化は庶民の暮らしにも広がりました。人々は自分の家の中だけではなく、家

の前の道路まで掃除しました。道路は自分一人のものではなく、地域みんなが使う場所です。自分の家の前をきれいにすることが、町全体をきれいにすることにつながりました。これは、まさに地域奉仕の原点といえるのではないのでしょうか。(以下は次号に掲載します)

■幹事報告

水出 博史 幹事

- ・ストーリーテリング キャンペーンのご案内と協力依頼、世界ポリオデーイベント開催依頼が届く。
- ・高岡西RCより創立60周年記念式典のご案内が届く。

10月28日(水) 午後4時30分～

ホテルニューオータニ高岡

29日(木) 午前観光 昼食会

- ・上田西、上田六文銭RCより、クラブ計画書を頂く。

■地区役員・委員ご挨拶 飯島洋一ロータリーアクト支援委員長、佐藤RLI委員長、増田補助金事業小委員より。



■出席報告

	正会員数	ベース	欠席	メイク	出席率
本 日	52	48	14	—	70.83%
前々回	52	49	15	11	91.84%

ニコニコBOX

(敬称略)

飯島(洋)、石井、上條、工藤、久保、倉島、後藤、小林塩之入、春原、関、滝澤(修)、竹花、玉井、田守、塚田中嶋、舟見、水出、蓑輪、村上、母袋(卓)、柳澤亭柳澤誠、山寺、渡辺

※玉井権太郎君／商工会議所青年部 青木会長 よろしく
お願いします。整体でも、いつもお世話
になってます。

※小林正人君／青木会長、ようこそ。

※飯島洋一君／青木さんのスピーチ、楽しみです。

※母袋卓郎君／6月中に白内障の手術が終わり、メガネ
無しの生活が実現しました。鏡を見て、
「俺って、こんな顔だっけ?…」

※蓑輪佳明君／暑いです。水曜日の昼が私にとって体を
休める一時です。

※村上 泰君／暑くてコメントが考えられません。

※山寺高太郎君／本日39℃の予定だそうです。体温超え
で解熱剤を飲みたい。皆様お体大事に!

※渡辺敏成君／スペインがエムバペを完璧に押さえ込ん
でいました。日本もまだまだですね。

本日の金額／29,000円 累計／149,000円